

平成24年度第1回城陽市障がい者自立支援協議会・全体会次第

日 時 平成24年9月10日（月）
午後2時から
場 所 市役所4階 第2会議室

1 開 会

2 議事

- (1) 障がい者自立支援制度の利用状況について
- (2) 自立支援協議会及び専門部会の取組状況について
- (3) 城陽市障がい者虐待防止センターの設置（案）について

3 その他

4 閉 会

資 料

- ①障がい者自立支援制度の利用状況について …資料No.1
- ②平成24年度の取り組みについて …資料No.2
- ③城陽市障がい者虐待防止センターの設置（案）について …資料No.3
- ④城陽市障がい者自立支援協議会委員名簿 …資料No.4

障がい者自立支援制度の利用状況等について

1 支給決定者数について

	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末
生活保護	34人	39人	46人
低所得1	149人	404人	454人
低所得2	216人		
一般世帯	155人	173人	202人
合 計	554人	616人	702人

2 障がい程度区分の認定状況について(平成23年度末)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
身体障がい者	0人	22人	40人	31人	20人	24人	137人
知的障がい者	7人	14人	30人	60人	69人	34人	214人
精神障がい者	3人	19人	15人	14人	3人	1人	55人
合 計	10人	55人	85人	105人	92人	59人	406人

3 障がい福祉サービスの利用状況

【介護給付】

居宅介護等

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
身体障がい者	利用人数(月延べ)	407人	404人	497人
	利用時間数	6,824.5時間	6,974.0時間	11,191.5時間
知的障がい者	利用人数(月延べ)	331人	337人	357人
	利用時間数	4,503.0時間	4,694.0時間	3,711.0時間
精神障がい者	利用人数(月延べ)	270人	292人	302人
	利用時間数	3,026.0時間	3,145.5時間	3,170.0時間
児 童	利用人数(月延べ)	112人	126人	125人
	利用時間数	2,185.0時間	3,215.0時間	3,291.0時間

デイサービス

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
児 童	利用人数(月延べ)	1,004人	1,162人	1,311人
	利用日数	2,708日	3,386日	4,013日

短期入所

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
身体障がい者	利用人数(月延べ)	24 人	24 人	62 人
	利用日数	75 日	263 日	485 日
知的障がい者	利用人数(月延べ)	159 人	241 人	269 人
	利用日数	868 日	1,338 日	1,558 日
精神障がい者	利用人数(月延べ)	22 人	14 人	6 人
	利用日数	148 日	173 日	59 日
児 童	利用人数(月延べ)	106 人	145 人	150 人
	利用日数	348 日	424 日	533 日

共同生活介護(ケアホーム)

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
知的障がい者	利用人数(月延べ)	142 人	149 人	265 人
精神障がい者	利用人数(月延べ)	1 人	2 人	5 人

施設入所支援

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
身体障がい者	利用人数(月延べ)	46 人	48 人	42 人
知的障がい者	利用人数(月延べ)	521 人	630 人	651 人
精神障がい者	利用人数(月延べ)			11 人

生活介護

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
身体障がい者	利用人数(月延べ)	605 人	619 人	723 人
	利用日数	5,511 日	6,013 日	7,718 日
知的障がい者	利用人数(月延べ)	1,463 人	1,738 人	1,712 人
	利用日数	25,348 日	31,783 日	33,298 日
精神障がい者	利用人数(月延べ)	6 人	12 人	11 人
	利用日数	54 日	108 日	196 日

療養介護

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
身体障がい者	利用人数(月延べ)	12 人	12 人	12 人
	利用日数	365 日	365 日	337 日

【訓練等給付】

就労移行支援

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
身体障がい者	利用人数(月延べ)	26 人	26 人	42 人
知的障がい者	利用人数(月延べ)	333 人	163 人	143 人
精神障がい者	利用人数(月延べ)	15 人	50 人	120 人

就労継続支援

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
身体障がい者	利用人数(月延べ)	82 人	114 人	182 人
知的障がい者	利用人数(月延べ)	493 人	595 人	642 人
精神障がい者	利用人数(月延べ)	191 人	190 人	224 人

自立訓練

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
身体障がい者	利用人数(月延べ)	13 人	7 人	10 人
知的障がい者	利用人数(月延べ)	100 人	114 人	105 人
精神障がい者	利用人数(月延べ)	4 人	101 人	143 人

共同生活援助(グループホーム)

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
知的障がい者	利用人数(月延べ)	0 人	3 人	0 人
精神障がい者	利用人数(月延べ)	9 人	24 人	6 人

【旧法施設サービス】

入所施設

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
身体障がい者	利用人数(月延べ)	86 人	84 人	82 人
知的障がい者	利用人数(月延べ)	172 人	63 人	39 人

通所施設

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
身体障がい者	利用人数(月延べ)	25 人	13 人	12 人
知的障がい者	利用人数(月延べ)	195 人	122 人	28 人

【自立支援医療】

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
(旧更生医療)	給付件数(月延べ)	1,584 件	2,102 件	2,366 件

【補装具給付】

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
身体障がい者	給付件数	204 件	229 件	204 件
児 童	給付件数	106 件	101 件	82 件

【地域生活支援事業】

移動支援

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
身体障がい者	利用人数(月延べ)	386 人	403 人	240 人
	利用時間数	8,191.0 時間	9,365.0 時間	5,602.0 時間
知的障がい者	利用人数(月延べ)	524 人	512 人	462 人
	利用時間数	5,295.5 時間	5,366.0 時間	4,095.0 時間
精神障がい者	利用人数(月延べ)	23 人	24 人	32 人
	利用時間数	62.5 時間	72.0 時間	103.0 時間
児 童	利用人数(月延べ)	844 人	981 人	917 人
	利用時間数	17,158.0 時間	18,052.0 時間	14,114.5 時間

日中一時支援

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
身体障がい者	利用人数(月延べ)	130 人	126 人	87 人
	利用時間数	2,313.0 時間	2,383.0 時間	2,122.0 時間
知的障がい者	利用人数(月延べ)	419 人	477 人	483 人
	利用時間数	4,611.0 時間	5,248.0 時間	5,836.0 時間
精神障がい者	利用人数(月延べ)	5 人	0 人	0 人
	利用時間数	144 時間	0 時間	0 時間
児 童	利用人数(月延べ)	812 人	922 人	903 人
	利用時間数	15,737.0 時間	19,231.5 時間	18,720.0 時間

日常生活用具給付

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
身体障がい者	給付件数	1,462 件	1,606 件	1,681 件
児 童	給付件数	206 件	224 件	220 件

コミュニケーション支援

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
手話通訳	実施件数	1,060 件	871 件	1,449 件
要約筆記	実施件数	159 件	165 件	200 件

相談支援

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
身体障がい	実施件数	5,060 件	4,621 件	5,308 件
知的障がい	実施件数	5,138 件	8,179 件	7,608 件
精神障がい	実施件数	9,213 件	11,341 件	12,120 件

地域活動支援センター

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
障がい者	利用人数(月延べ)	24 人	49 人	58 人
	利用時間数	400 時間	643 時間	965 時間

平成24年度の取り組みについて

- ・ 運営調整会議
- ・ 各専門部会
 - サービス調整検討部会
 - 地域支援部会
 - 就労部会
 - 聴覚言語障がい支援部会
 - 療育部会

平成 24 年度城陽市障がい者自立支援協議会

(運営調整会議報告)

部会長 障害者生活支援センター はーもにい 谷口 祐子

平成 24 年度上半期報告

◆開催日時と内容

第 1 回 平成 24 年 5 月 2 日 (水)

出席者 10 人

(構成員：城陽市福祉課・障害者生活支援センターはーもにい・障害児(者)地域療育支援センターういる・障害者生活支援センタープラム・みんななかま)

○ 市民連続講座の実施について

・で・らいとが行う緊急雇用事業において市民講座の共催事業とし、自立支援協議会が参画する。(7月・10月ゲートキーパー講座 9月末ひきこもり対策についての講座)

○ 事業所職員交流会・勉強会の実施について

・各事業所の勤務時間等の課題があるため、今後検討

○ 障がい児・者への防災対策について

- ・障がい特性の分類をどこまでするのか
- ・民生委員や現場で支援する人が参考になるようなマニュアルを作っては
- ・障がい者に対する防災意識をもってもらうためには
- ・どういった協議をするか基本的なところから検討が必要ではないか
- ・障がい者に係る防災についての課題を検討。専門部会の立ち上げや取り組み等について検討中

○ 障がい当事者におけるシンポジウムの開催について

- ・障がい当事者の意見を、どう自立支援協議会に反映できるか
- ・障がい者や関係者など幅広い人が自由に語れる場が必要ではないか

シンポジウムの実現には当事者相談員に運営していただき、場の提供などの協力を自立支援協議会として行ってはどうか

○各部会長より部会の報告

第 2 回 平成 24 年 6 月 12 日 (火)

出席者 10 人

(構成員：城陽市福祉課・障害者生活支援センターは一もにい・障害児(者)地域療育支援センターういる・障害者生活支援センタープラム・みんななかま)

○自殺対策事業の市民公開講座について

・運営調整事務局として事前のチラシの配布や当日の準備等の協力を行う。

○ひきこもり対策事業

・市民公開講座9月8日開催。共催として自立支援協議会も参画する。

○障がい者施設見学会について

○防災対応について

○各部会長より部会の報告

第3回 平成24年8月7日(火)

出席者 11人

(構成員：城陽市福祉課・障害者生活支援センターは一もにい・障害児者地域療育支援センターういる・障害者生活支援センタープラム・みんななかま)

○全体会の部会報告について

○障害者虐待防止法について

◆平成24年度の取り組みについて

(1) 市民公開講座の開催

・「一人ひとりがゲートキーパー～基礎編～」

日時：7月23日 14:00～16:00、9月29日 10:00～12:00

場所：福祉センター・ホール

内容：自殺が起こる経緯や背景を知り、「死にたい」という思いを抱える人への対応方法を勉強することで、自殺のサインに気付き、適切な対応を図れる「ゲートキーパー」の養成を行う。

・「ひきこもりの理解と支援について」

日時：9月8日 13:30～15:30 場所：福祉センター・ホール

内容：ひきこもりについての基礎知識や、必要とされる基本的な理解・対応等を学び、ひきこもり者への理解だけではなく、その家族の苦勞等への理解やサポートの方法を学ぶ。

(2) 啓発活動

・「障がい者施設見学会」

日時：10月16日 10:00～14:00

見学施設：南山城学園（魁、あっぷ）、青谷学園 DO、ぷちぼんと（昼食）、
障害者生活支援センターはーもにい、身体障害者デイサービス
センターすいんぐ
チェリー工房、あんだんて

内容：障がいについて理解を深める機会として、城陽市内になる様々な障
がい者施設の見学を行う。

平成24年度下半期のとりくみについて（予定）

○障がい当事者におけるシンポジウムの開催

障がい当事者やさまざまな分野の方が自由に意見を言える、シンポジウムの
開催。

平成24年度城陽市障がい者自立支援協議会

（サービス調整検討部会報告）

部会長 障害者生活支援センター はーもにい 内田 照美

平成24年度上半期報告

◆開催日時と内容

第1回 平成24年4月25日（水曜日）

- ショートステイを繋いで利用し生活している事例を検討
- サービス利用計画書の作成とモニタリングを進めるに当たって
踏まえておくこと

出席者 14人

（構成員：城陽市福祉課，南京都病院，障害児（者）地域療育支援セン
ターういる，

障害者支援施設あんどびしゃ，城陽作業所，城陽市社会福祉協議会訪
問介護センター，指定居宅介護支援事業所チャレンジ，ものづくり
スペースみんななかま，
知的障害者デイサービスセンターあっぷ，身体障害者デイサービス
センター
すいんぐ）

◆部会のまとめ（課題や問題点など）

両親が他界。兄弟はいるが、仕事があり十分に面倒をみることができない。生活力を考えると一人暮らしは難しい。日中は障害福祉サービス事業所に通所し、通所後は、ショートステイを利用している。ショートステイ利用は、ほぼ毎日であることから、ショートステイ事業所1ヶ所では対応できず、2～3ヶ所を転々としている。その状態が長期化している利用者の行き先として、グループホーム・ケアホーム（以下、GH・CH）を考えるが空きがない。城陽市自立支援協議会専門部会の中でGH・CHを作っていく話し合いができないかという議題もでたが、サービス調整検討部会は、相談の中心となる人物として、ショートステイを繋いで利用し生活している利用者をいかに支援していくかについて考えた。

相談の中心となる人物は、ショートステイ利用が長期化しないように配慮し、グループホームが見つかるまでとか期間を設定して個別ケア会議を行い、支援の内容やサービスを見直すことを忘れてはならない。

ショートステイ利用者は、施設入所の利用者やGH・CHの利用者と違い、利用の目的や本人の背景、生活支援全体の方向性などを理解されないまま、単に泊りに来ているお客さんというあつかいになりやすい。そのことによりショートステイ事業所を転々として長期化することになると、利用者は落ち着かず、精神的に不安定になる。相談の中心となる人物は、グループホームなどの受け入れ先が決まるまでの間、利用者の気持ちも支えていかなければならないことから、出来るだけ同じ場所で生活できるようにする。

そして、ショートステイ事業所や関係機関に、利用者の情報や現状を念入りに伝え、利用者が人との関係で気持ちを繋いでいくための支援を続ける。利用者に対しては、自分の将来のイメージがもてるよう、グループホームの体験など、多方面から働きかけを続けることで、利用者の意欲に繋がっていくのではないか。

平成24年度のとりくみについて（予定）

サービス調整検討部会は、相談の中心になる人物という立場にたって、利用者を支えるためのサービス調整や支援の考え方、限られた社会資源の中でいかにサービスを組み合わせしていくのかということについて話し合っていく。今後も事例を検討していくなかで、相談支援を行っていく市内の障害福祉サービス事業所が『相談の中心になる人物』という立場にたって、利用者の将来の目標に向かうためにサービスを組み合わせいくことの重要性を確認していく。

平成 24 年度城陽市障がい者自立支援協議会

(地域支援部会報告)

部会長 障害者生活支援センタープラム 岸見千絵

平成 24 年度上半期報告

◆開催日時と内容

第 1 回 平成 24 年 7 月 17 日 (火曜日)

○民生児童委員の活動役割とについて

出席者 10 人

(構成員：知的障害者デイサービスセンターあっぷ、城陽作業所、障害者支援施設あんびしや、チェリー工房、障害者生活支援センタープラム)

講師：城陽市民生児童委員協議会 副会長 田島茂氏

◆部会のまとめ (課題や問題点など)

(1) 近年、孤立死等の問題が取り沙汰されることが増えた。高齢者世帯、障がい者世帯、生活困難世帯などその要因は様々であり、それに合わせた相談窓口も増えてきてはいるが市民に広く知られていないのが実情である。

そこで市民にとって最も身近で相談しやすい存在と思われる民生児童委員の概要とその役割を今一度再認識し、その活動全般について学んだ。

(2) 民生児童委員として活動する上で困難に感じたことやその事例の検証、民生児童委員だからこそ出来ること、限界を感じることを率直に語ってもらった。そのうえで民生児童委員が行政や障がい者福祉事業所に求めるものは何か、また今後障がい者福祉事業所の職員、支援員は今後民生児童委員とどのように連携を取っていくべきかを検討した。

平成 24 年度のとりくみについて (予定)

支援者が既存の障がい者福祉の枠にとらわれない広い視点を持って障がい者支援にあたる事が出来るように、地域の様々な分野で活動されている方との交流を深めること、見聞を広め、学習することを取り組みの中心とするともに、地域に住む障がい者の課題を検討し共有する。

具体的には、地域生活を支える電話相談事業における専門家や、触法者を支える専門家を招き、制度や資源の知識、相互理解を深めることを予定している。

平成 24 年度城陽市障がい者自立支援協議会

(就労部会報告)

部会長 ものづくりスペースみんななかま 竹内 仁

平成 24 年度上半期報告

◆開催日時と内容

第 1 回 平成 24 年 5 月 31 日 (木曜日)

○就労保障と工賃アップについて、福祉情勢・就労に関わる情報の共有

○2012 年度就労部会の取り組み

出席者 10 人

(構成員：城陽市福祉課、宇治支援学校、就労促進・授産支援ネットワーク、障害者支援施設あんびしゃ、城陽作業所、ワークショップ野の花、ものづくりスペースみんななかま)

◆部会のまとめ (課題や問題点など)

(1) 障がいのある人の就労保障と工賃アップ

- ・ 就労促進・授産支援ネットワークの実践。(城陽市内 7 つの就労系福祉事業所が集まっているネットワーク)
 - * 自主製品の販路拡大として、今年度から城陽市役所庁舎内の販売回数が月 1 回から月 2 回となった。(第 2 木曜と第 4 木曜)
 - * 喫茶事業：城陽市商工会議所の支援のもとアクティ商店街にある店舗を借りて喫茶事業を計画。喫茶業をとおして、障がいのある人の工賃アップとコミュニケーション力向上から労働意欲を高め一般就労へと繋げていく。
- ・ 企業との連携
 - * 2011 年度第 4 回就労部会で講師にきていただいたアグティの実践を参考に企業との連携を強化し受注仕事の安定、企業就労へのルートを広げていく。
 - * 具体的には、就労部会に企業関係者(商工会議所・中小企業家同友会等)の参加要請が必要となってくる。
- ・ 自主製品販路確保に向けて
 - * 企業・団体等へのプレゼンテーションの場の設定。(京都ほっとはあとセンター参考)
 - * プレゼンテーションを実施することによって、企業側からの多様な注文に対応できるようにしておくことが求められる。あわせて生産

量への対応と納期の厳守が絶対条件となることから、就労部会での丁寧な協議が必要となる。

(2) 福祉事業所 就職フェアの実施

- ・ 福祉事業所の多様な情報を発信する目的で、在校生（支援学校・地域の学校）とその家族が知りたい情報を把握できる場として実施。特に卒業後の進路を決めるにあたっての情報収集の場として実施。
- ・ 山城北圏域ではすでに福祉事業所の全体説明会を実施しているが、今回実施するフェアは個別対応（対談方式）を中心に実施する。（全体説明会は宇治支援学校と八幡支援学校で実施している）

平成 24 年度のとりくみについて（予定）

- ・ 福祉事業所フェアの実施。
 - * 丹波支援学校へ圏域で実施しているフェアの聞き取り調査（7月）
 - * 福祉事業所フェアの実施。（12月頃予定）
- ・ 企業との連係。
 - * 就労部会に企業関係者に入っただき、協議を始めていく。
- ・ 工賃の考え方（給料の考え方）についての学習。

平成 24 年度城陽市障がい者自立支援協議会

（聴覚言語障がい支援部会報告）

部会長 聴覚障害者生活支援センター はーもにい 山崎 伸治

平成 24 年度上半期報告

◆開催日時と内容

第1回 平成24年5月18日（金曜日）

○委員の確認

出席

者12人

○今年度協議する内容について

（構成員：城陽市福祉課、手話通訳者の会、要約筆記奉仕員会、手話サークル、要約筆記サークル、城陽市ろうあ協会、城陽市難聴者協会、相談支援事業所）

第2回 平成24年6月29日（金曜日）

○『あそびのひろば』の報告

出席

者12人

○『親子手話教室』の準備

(構成員：城陽市福祉課、手話通訳者の会、要約筆記奉仕委員会、手話サークル、要約筆記サークル、城陽市ろうあ協会、城陽市難聴者協会、相談支援事業所)

第3回 平成24年8月17日(金曜日)

○『親子手話教室』の報告

出席

者11人

○災害時支援のあり方と『支援マップ』について

(構成員：城陽市福祉課、手話通訳者の会、要約筆記奉仕委員会、手話サークル、要約筆記サークル、城陽市ろうあ協会、城陽市難聴者協会、相談支援事業所)

◆部会のまとめ(課題や問題点など)

(1)今年度は正式に当事者団体から継続して出席可能な委員を選出してもらい、ろうあ協会から1名、難聴者協会から2名、全体で12名の構成となった。

第1回と2回の部会では『あそびのひろば』『親子手話教室』に関する内容の協議や準備を中心に取り組んだ。

第3回は昨年度からの継続課題である『支援マップ』の作成について、災害時のサポーター(手話や要約筆記のボランティア)登録に向け進捗状況や課題を確認した。

『支援マップ』は当初地震による災害を想定し、避難所での情報保障のあり方を検討していたが、先日8月14日の豪雨災害をきっかけに、もう一度災害全般に必要なことは何か検討することとなった。

当面、専門部会に参加していない当事者や支援者からの意見を集約するため、各団体の会議で協議してもらうよう依頼した。

(2)啓発活動

①『あそびのひろば』(民生児童委員協議会主催行事 6月19日 久津川保育園)

聴覚障がいの啓発に向けた「出前講座」の一つとして、『あそびのひろば』に訪問。

短時間であったが「手あそび」や子どもに人気のあるアニメ映画の主題歌を「手話歌」で表現し、参加された親子と部会のメンバーと一緒に取り組んだ。

手話への抵抗もなく、反応も良かった。親子ともども楽しめたということ

で、委員

から継続して取り組みたいと積極的な提案があった。

②『親子手話教室』（7月25日・8月1日・8月8日 福祉センター）

- ・長期休暇を利用した親子体験教室。
- ・定員10組の募集に参加者は8組17人（親8人子ども9人）
- ・グループを就学前と小学生の2つに分け、表現の練習、手話の学習、手話歌の練習
子どもたちはゲーム、親は手話劇の練習なども行った。
- ・手話教室の指導は、部会に参加している委員を中心に委員以外の当事者の方にも
呼びかけて参加してもらった。
- ・最終日はグループに分かれて手話歌『さんぽ』、『小さな世界』の発表。また親による手話劇『桃太郎（寸劇）』を行った。

【感想】（一部）

子ども…いろいろ教えてもらえてうれしかった。いっぱい覚えて会話したい。

自分の名前の手話を覚えられてよかった。手話の歌が少し難しかった。

ジェスチャーゲームやクイズが楽しかった。

親…子どもの手話教室や手話サークルを作ってほしい

子どもの笑顔がたくさん見られてよかった。

子どものうちに手話に関われる環境を作ってほしい。

城陽市の子どもがみんな手話のできる社会ができるよう願っている。

手話歌や劇など短時間で体験できたことが楽しかった。

手話を通していろんな方とふれあうことができて良かった。

委員…子どもたちの手話を覚えるスピードの速さに驚いた。

今後も続けることで将来の手話通訳を担って欲しい。

今回難聴児の参加がなかったのが残念。

「親子手話教室」が継続できるように専門部会の単独開催ではなく、仕組みを

考えてほしい。

平成24年度下半期のとりくみについて（予定）

- 支援マップ・災害時支援のあり方
各団体からの報告を受け、あらためて協議する。
- コミュニケーション支援（者）の高齢化にともなう後継者養成について。
- 啓発活動について

平成 24 年度城陽市障がい者自立支援協議会

（療育部会報告）

部会長 障害児(者)療育支援センターういる 籠谷 光彦

平成 24 年度上半期報告

◆開催日時と内容

第 1 回 平成 24 年 7 月 20 日（金曜日）

- 自閉症の方の食行動のこだわりについての事例検討 出席者 8 人

（構成員：城陽市福祉課、障害児(者)地域療育支援センターういる、障害者生活支援センターはーもにーい、ものづくりスペースみんななかま、城陽市社会福祉協議会訪問介護センター、指定居宅介護事業所チャレンジ、障害者支援施設あんびしゅ、知的障害者デイサービスセンターあつぷ）

◆部会のまとめ（課題や問題点など）

(1) 偏食等のこだわりに対しての各事業所の取り組み

食事支援においては、日ごろからの関わりにおける信頼関係が重要。また、本人からの訴えの特性（思いとは反対の言葉を言ってしまうたり、言葉で思いがうまく伝えられない等）を理解した上で、対応することが必要になる。

その他、口の中の感覚として咀嚼・嚥下の機能が低い子もいるので、口の動かし方を 経験させていく必要もある。

(2) 本人の障がい特性の周囲の理解についての考え方

保護者と本人との距離感が近すぎる場合には、周りの意見が入らないときがある。支援する事業所は、本人のサポートに入っている状況を保護者

に見てもらふことで、保護者に客観的な視点を持たせることができる。親が先に亡くなった時に、どれだけ本人ができる事を増やしてあげられるかを一緒に考えていく事が重要。またその為に、支援者も時間をかけて、根気強く保護者と話していくことが求められる。

事業所としては、障がい者に対して新しいチャレンジを試みた際に、失敗する事で保護者との関係性が崩れることへの不安がある。しかし、支援する側が失敗する事に構えてしまうと何もできなくなる。失敗も含めてやってみる事から、新しいことができたときに、保護者と共に喜ぶ事でき、そういった積み重ねが必要である。

平成 24 年度のとりくみについて (予定)

- ・ 宇治支援学校や地域の学校との連携
- ・ 事業所見学

城陽市障がい者自立支援協議会委員名簿

任期：平成23年9月1日～平成25年8月31日

(五十音順：敬称略)

委員名	所属等
いで みちこ 井手 道子	城陽市身体障害者協会
おおみや かずこ 大宮 和子	城陽市心身障害児者育成会
アルデリヤーヌ めぐみ 惠	宇治久世医師会
さかもと あきひろ 坂本 明弘	城陽市難聴者協会
さわだ ひとし 澤田 均	京都府立宇治支援学校（平成24年4月～）
しらい ゆみこ 白井 由美子	城陽市ろうあ協会
すずか よしひろ 鈴鹿 義弘	城陽市民生児童委員協議会
せきかわ よしたか 関川 芳孝	公立大学法人大阪府立大学 社会福祉学科
たけした けいこ 竹下 佳子	城陽市社会福祉協議会（平成24年4月～）
つちはし なるひと 土橋 成人	南山城学園障害者生活支援センターはーもにい
なかの ゆうすけ 中野 裕介	市民（公募）
にしやま まさこ 西山 正子	市民（公募）
のうつか たかひろ 能塚 隆裕	京都府山城北保健所福祉室
ふるいち ひろし 古市 洋	城陽市精神家族会アルプス
ほりい いさお 堀井 功	京都府視覚障害者協会城陽支部
ほんま よしろう 本馬 吉朗	城陽ボランティア連絡協議会
むらまつ みつる 村松 充	京都聴覚言語障害者福祉協会
もりやま あきこ 森山 章子	障害者生活支援センタープラム
やまもと まさあき 山本 雅昭	城陽市校長会（平成24年9月～）